

二十一 平末 滿日給ノ十六日分

参照ノ工服ノ幾連々ノ補給手當原宝

ヲ附録ス

逓々ノ補給工服ノ幾連々ノ補給手當原宝ノ非當ニ非ズ
 又工服ノ補給ニ幾連々ノ補給手當原宝ノ幾
 一回工服ノ補給ノ幾連々ノ補給手當原宝ノ幾
 一回工服ノ補給ノ幾連々ノ補給手當原宝ノ幾
 一回工服ノ補給ノ幾連々ノ補給手當原宝ノ幾

常盤興業社田端一册目

大正十三年二月一日

財団法人協調會大阪支所

一、滿一ケ年以上日給ノ廿一日分

一、滿一ケ年半年日給ノ三十日分

一、以上ヲ超ユル期間一ケ月ニ付日給ノ一日分

一、五年ヲ超ユル期間一ケ月ニ付日給ノ二日分

一、十年ヲ超ユル期間一ケ月ニ付日給ノ三日分

一、本社事務ノ都合ニヨリ解雇ノ場合ハ二週間以前ニ豫告ナス
 モノトス

一、業務ノ爲メニ負傷シタルモノニシテ退職ヲ許可シタル場合
 ハ解雇手當金額ノ二分ノ一ヲ支給ス

一、外ニ豫告手當十四日分

一、同工場ハ解雇手當規定ヲ發表シタ日職工諸君ニ工場ガ作製シタ
 誓約書ニ調印セシメタガ庄村泰造、三原長造ノ二名ハコンナ馬
 鹿々々シイ誓約書ニ調印スル事ハ出来ナイト云ツテ該書ニ調印
 セナカツタノデ工場ノ當事者ハ憤慨シテ庄村、三原ヲ誅首シタ